

第5回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（平成23年度）

<p>渋間 久</p>	<p>山形県新庄市 県立新庄病院・副院長</p>
<p>昭和53年自治医科大学卒。へき地医療拠点病院である県立中央病院から長年にわたり、代診等のためへき地診療所等に出向き、医療機会の確保に努めた。平成19年4月からは最上地域二次保健医療圏唯一の中核病院である現勤務先の県立新庄病院（へき地医療拠点病院）の副院長として地域住民に信頼と安心を与える医療の提供に取り組んでいる。また、県のへき地医療を総合的に支援する体制として「山形県地域医療支援センター」（平成5年度に設置）において、副センター長として中心的な役割を果たし、その後も「山形県地域医療支援機構」の設立に尽力、助言・調整を行う「専任担当者」（平成16年12月～平成17年7月）として貢献した。</p>	
<p>田原 邦朗</p>	<p>東京都西多摩郡檜原村 檜原村国民健康保険檜原診療所・所長</p>
<p>昭和58年自治医科大学卒。檜原村は島しょを除く東京都の唯一の村で、急峻な山嶺に囲まれた集落が点在している高齢化率42.5%の過疎・山村。その檜原村に平成4年から勤務、診療所が医療、保健、福祉の拠点となる「やすらぎの里」へ移転した平成11年からは診療所長として、同地で約20年にわたり、医療、保健、福祉事業全般に従事し、地域医療の充実に取り組んでいる。また、最低2名の医師が必要という前任診療所長の信念を引き継ぎ、常に2名体制確保に取り組み、安定した医療を提供している。平成17年から東京都へき地医療支援計画策定会議委員に就任し、山間へき地医療について提言を行い、自治体の地域医療政策に貢献している。</p>	
<p>蜂谷 春雄</p>	<p>富山県高岡市 高岡市民病院・内科主任部長</p>
<p>昭和55年自治医科大学卒。27年間勤務した氷見市民病院は氷見市唯一の総合医療機関であり、へき地医療拠点として昭和57年5月からへき地巡回診療を開始した。昭和57年4月に赴任してから常にその中心的役割を果たし、巡回診療を7地区から12地区に拡充するなど、氷見市のへき地医療確保・向上に取り組んだ。また、無医地区・医療過疎地区の医療については、市内開業医と市民病院の連携で維持されているが、平成16年7月から地域医療連携室長を兼務し、病診連携医療情報ネットワークの構築に努力し、全体的な氷見市の医療機能向上に取り組んでいる。</p>	
<p>橋本 宏樹</p>	<p>石川県白山市 公立つるぎ病院・副院長 兼 吉野谷診療所・所長 兼 中宮診療所・所長</p>
<p>昭和63年金沢大学卒。平成4年4月から生まれ育った吉野谷村国民健康保険診療所長に就任、以降19年余りにわたり、地域医療に従事してきた。広大な白山山麓であり、診療圏も広範囲に及んでおり、過疎化・高齢化が進む同地域で当初より在宅医療を重視し、平成4年10月より診療訪問を開始、現在も「在宅療養支援診療所」として24時間365日体制で地域医療を担っている。また、隣接する特別養護老人ホームや訪問看護ステーションと密接に連携し、地域包括ケアの推進にあたり中心的役割を果たしている。平成20年4月からは白山石川医療企業団に統合、同企業団内の公立つるぎ病院（へき地医療拠点病院）の副院長も兼務し、より連携の強化を図っている。</p>	

細江 雅彦	岐阜県恵那市 市立恵那病院・管理者
<p>昭和56年自治医科大学卒。平成5年4月から、地域での包括医療を行うプライマリー・ケアや総合診療医学を実践すべく、へき地中核病院として地域の診療所を支援するとともに、温泉を利用したリハビリ施設がある下呂温泉病院で総合内科部長として、各臓器の専門家と一緒に、患者の調整役として治療・ケアにあたった。9年間、患者の疾病管理のみならず、心の問題、退院後のケアを考慮するなど、地域の住民に親しまれる医療を実践してきた。また、市立恵那病院は地域に密着した医療・保健・福祉の総合サービスの中核施設として、恵那市が国立療養所恵那病院から移譲を受けた病院であり、へき地医療拠点病院である。平成15年12月にそれまでの経歴を評価され、管理者に就任、恵那地域の医療の充実に取り組んでいる。</p>	
阿部 顕治	島根県浜田市 浜田市国民健康保険弥栄診療所・所長
<p>昭和59年島根医科大学卒。平成8年に弥栄村国民健康保険診療所長に就任。5年後には弥栄村の脳卒中死亡率(県平均の1.8倍)を県と同レベルに近づけた。高血圧や糖尿病などの慢性疾患は管理が重要と考え、健康診断でチェックをし、すぐに受診予定を組むといった予防と医学管理を直結する体制づくり、糖尿病友の会など地域活動の推進、各家庭での血圧測定の奨励、福祉との連携など地域包括医療の確立に鋭意取り組んでいる。平成21年度には、将来の地域医療を担う人材を育てるため、診療所内に「浜田市中山間地域包括ケア研修センター」を設置した。さらに、市内4つの国保診療所が連携して、市内全域で安心して診療が受けられる体制を目指して、「浜田市国民健康保険診療所連合体」の構築と地域の中核病院(国立病院機構浜田医療センター)との有機的連携方策を具体的に提言し、実践する等、浜田市全体の地域医療の先導的な役割を果たしている。</p>	
茶川 治樹	山口県岩国市 岩国市医療センター医師会病院・副院長
<p>昭和53年自治医科大学卒。昭和62年6月から、県東部のへき地に所在する美和町立美和病院(現・岩国市立)の副院長・院長として13年間勤務する中、訪問診療の充実に注力するとともに、地域の暮らしを理解した医療提供の重要性を広く医療関係者等に浸透させ、人材育成に貢献した。平成17年4月からはへき地地域を近隣に有する岩国市医療センター医師会病院(地域医療支援病院)の副院長として、患者の受け入れや救急医療、または地域医療従事者への研修等へき地医療の支援を積極的に行っている。また、卒後研修後すぐに「後進の自治医科大学医学生は在学中から地域医療の現場を体験させることが重要」と実感し、昭和56年度から同県では初めてとなる自治医科大学在学学生向けの夏季研修を主催して、現在の礎を築いた。</p>	
永吉 正和	熊本県天草市 天草市病院事業管理者
<p>昭和40年熊本大学卒。天草市立河浦病院は熊本市から130キロメートル離れた島しょ地域である天草上島にあり、平成14年1月に院長として着任した際は累積赤字が年々増加している状態だった。経営の改善を図るため、平成15年4月、一般病棟と療養病棟の再編を行い病床利用率の向上と安定を図るとともに、地域の医療機関としての救急医療の必要性を重視して患者の受け入れ態勢を充実させた。平成16年度には10年ぶりに黒字化し、現在も順調な経営を続けている。また、河浦病院をはじめとした4病院、3診療所の経営を一体化する天草市病院事業を推進し、平成22年4月の公営企業法全部適用化後、天草市初の病院事業管理者に就任した。このうち河浦病院を除く3病院が深刻な医師不足と赤字経営になったことから連携を強化、平成23年度には全病院が黒字となる見込み。72歳という高齢にもかかわらず、若い医師以上に当直に入るなど、黙々と地域の患者のための医療に取り組んでいる。</p>	